

### 深圳日本人学校校歌

「素直なままで」 作詞・作曲 大黒摩季

アジアの海風を受けて  
レイシがそよぐ深圳に  
わたしたち 今を生きている  
明日を夢に見て  
白い曇り空はキャンパス  
色とりどりの未来描こう  
真つ赤な夕陽色 桜色  
輝く人になりたい  
学ぶことは 尽きないけれど  
知識は心を 飾る絵具  
笑ってゆこう 素直なままで  
キレイな色で 未来を描こう

蛇口の港を行き交う船  
光に集まる夢追い人  
込み上げる心を蓄えて  
世界へと漕ぎ出す  
私たちがいつの日にか  
はばたく日が来ることでしょ  
出来るなら力強く大きな  
翼で高く飛びたい  
人の心 見えないから  
戸惑うけれど きつと分かり合える  
笑ってゆこう さあ手を繋ごう  
愛を信じて 世界を開こう  
笑ってゆこう 素直なままで  
輝く声で 未来を呼ぼう

タップして深圳日本人学校の校歌を聞いてみよう  
<http://www.jsszcn.com/annai/kouka/>



作詞・作曲を手がけてくれた大黒摩季さんによる自筆の楽譜。玄関に大切に飾られている。



毎月一回の音楽朝会で校歌「素直なままで」を歌う子どもたち(2021年6月)

素直で  
しなやかな心を持って  
生きてほしい

本校は校歌にも出てくる「蛇口(Shekou)」といわれる港町にあります。蛇口の海は貿易や漁業の船が行き交い、学校裏山の南山からは、夕陽に染まる蛇口の街並みや海が一望できます。現在小学部一八九人、中学部五十八人の子どもたちが通っています。  
本校の校歌は、日本のトップアーティストである大黒摩季さんがつくってくれました。

「子どもたちから」  
「とてもすきなうたです。なぜならきれいだから」  
「うたっていて気持ちよくなる」  
「かんとつするから大好き」  
「普通の校歌とは違う、バラードのような感じが好き」

二〇〇八年の創設時、大黒さんは深圳を来訪し、アジアのシリコンバレーと呼ばれる活気ある風景やそこで出会った人々のエネルギーを感じながら、この街でいきいきと学ぶ日本の子どもたちへの希望を校歌に託してくれました。

「どんな校歌がいい？」という大黒さんの問いに、当時の子どもたちや教職員からは「希望に向かう」

「教職員から」  
「メッセージのある歌詞がよい。子どもたちの未来への思いが込められている」  
「私たちがいつの日にか、はばたく日が来ることでしょ」という歌詞が、いつかはこの深圳という土地を離れる子どもたちに、いまこの深圳で生きていることの大切さや、人と人との絆の大切さを教えてくれる」